

論文番号 232

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Differences in sensitivity to the aversive effects of ethanol in low-alcohol drinking (UChA) and high-alcohol drinking (UChB) rats

低嗜好性アルコール摂取ラットと高嗜好性アルコール摂取ラットにおけるエタノール忌避効果の感受性の違い

執筆者

Quintanilla, M. E., Callejas, O., Tampier, L.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol, 23(3)177-82 (2001)

キーワード

アルコール摂取、エタノール、薬剤耐性、食物嗜好

要旨

条件付け味覚嫌悪法をもちいて口腔感覚とは別のエタノールの薬理的な効果に対する嫌悪がエタノール自由摂取量の差に関与するか否かをアルコール摂取に対して低嗜好性のラット (UChA) と高嗜好性のラット (UChB) の両系統において調べた。アルコールに未経験の UChA と UChB に腹腔内に 0.5, 1.0, 1.5, 2.0 g/kg のエタノール又はコントロールとしての生理的食塩水を投与し、これとともにバナナ風味の溶液を同時に提示した。バナナ風味の溶液とエタノール投与を繰り返すことにより、エタノール 1.5 g/kg の投与量で UChA ラットではバナナ風味溶液を忌避したが、UChB ラットでは忌避を示さなかった。これに加え、高エタノール投与 2.0g/kg では UChA ラットにおいて強い忌避が観察された。これらの結果から、UChA ラットでは高投与量エタノール摂取後の効果が UChB ラットに比べより大きいことを示している。自発的なエタノール摂取の差はエタノールの忌避効果の感受性の差に関係しているようである。